

平成24年度
教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検・評価報告書



平成25年3月

出雲崎町教育委員会

平成 24 年度点検・評価報告書の概括について

1 議会に報告する事由

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条」の規定により、平成 20 年度から教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況等について、学識経験者を活用して、毎年、教育委員会自らが点検・評価を行い、その結果を議会に報告することとなった。

上記の規定により、以下のとおり点検・評価を行った。

2 学識経験者の知見の活用

平成 24 年度点検・評価に当たっては、前年度同様、元長岡市立北中学校長の山崎十五郎氏（旧西山町）から総合評価をいただくとともに、次年度に向け助言・指導を得た。

3 報告書作成に当たって

- (1) 各重点施策において、具体的な取組み状況を列記しながら、その成果などを整理した。
- (2) この度の点検・評価については、学校教育や社会教育のなかで子どもたちが関わった事業等（学校・家庭・地域の連携協力推進事業）について、学校支援地域本部コーディネーターの代表などから意見を求め、成果として纏めるとともに、できるだけ、活字の列挙を少なくし、視覚的な面から取組み内容等がわかるような構成に努めた。

4 報告書の内容から見られる主だった評価

- (1) 「教育委員の活動状況」については、保護者や地域住民に対して、機会あるごとに情報の発信を行い、教育委員会活動の周知に努めたい。
- (2) 「学校教育」については、町教委だより No.7 「資料：全国学力学習状況調査 P-25」から、出雲崎町の子供たちの家庭学習の時間的不足が数值上からも県平均・全国平均と比較して、顕著に少ないことが明らかとなっている。

小中 9 年間を見通しながら、家庭学習の指導にも発達段階に応じた指導を、どの段階でどのような指導を行うことが必要なのか、学校と家庭、教育委員会が連携を取りながら、家庭学習の充実・定着を図っていきたい。

また、全国学力テストの結果からは、小学校4年生から6年生の理科の学力が全国平均をかなり下回っている「**資料：学力向上対策（出小理科ほか P-26）**」原因の考察・分析から判断すると、実験・観察分野において、低下傾向がみられる。このことから、平成25年度においては、「**理科支援員を配置し**」、教員をサポートする体制の充実・環境整備を行い、理科の学力向上に結び付くよう努力をしていきたい。

- (3) 「社会教育」については、イール生涯学習でもあり、各事業の実施にあって、町民のニーズを把握しながら、歴史や文化など町の特色を生かした事業を実施するとともに、学社連携の中で、子供たちが町の歴史や町の歴史上有名な人物等について学習を学ぶ機会を増やしながら、町の歴史的文化を守り、この町に住んでいる誇りなど、町の財産を守り、育んでいく環境を醸成していきたい。

5 今後の点検・評価にかかる重点事項について

点検・評価の実施について、次年度は、特に次の事柄に配慮しながら、検討していく。

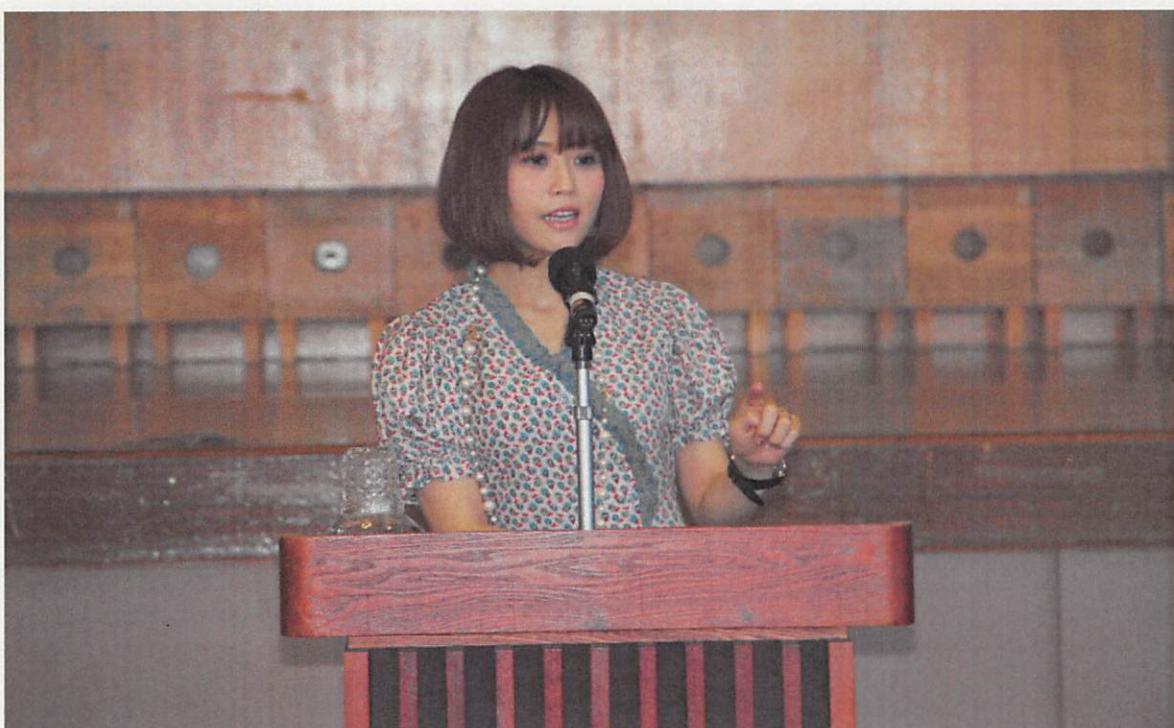
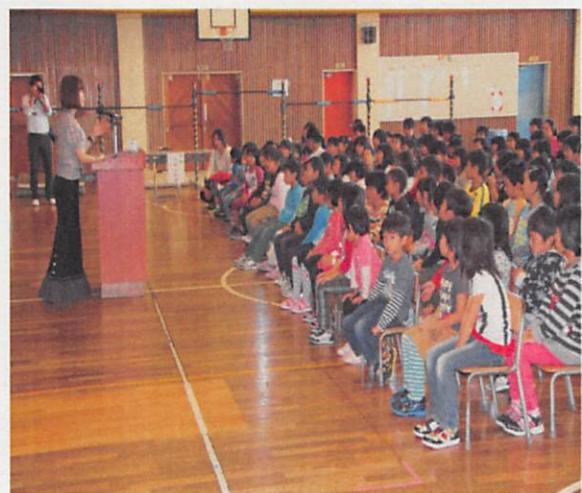
- (1) 今年度の報告書のとおり、点検・評価の項目について、写真や関係資料、また隨時にアンケート等も掲載していくとともに、良寛記念館が町に移管され、町直営となることから、子供たちが町の歴史的人物である良寛について勉強し、その伝え聞く良寛の心を中心として、誇りの持てる町であることを、学社連携のなかで、子供たちに伝えていく機会を持つことを、大きな重点事項の一つにし、評価していきたい。
- (2) 児童・生徒が一人の大人として成長していくためには、学校における教育だけではなく、地域との関わり・地域の人たちとの関わりが、一層重要な要素となってくるものと考える。
そのような観点から、本年度と同様、学校支援地域本部コーディネーターの代表から、点検・評価の感想を求めていきたい。
また、新たに、町内文化サークル団体等の代表者からも、加わっていただき、評価等お願いしたいと考えている。



平成 24 年 6 月 14 日(木)文化芸術鑑賞会
<太鼓集団：鼓童交流公演>の一コマ



<大勢の観客の皆さんと力強い太鼓の演奏>の一コマ



平成 24 年 10 月 17 日 (水) 未来の夢こども体験講演会
<講師：元なでしこジャパン大竹七未さん 講演会>の一コマ



平成 24 年 11 月 10 日（土）
<子育て教育講演会「講師：関崎智弥さん」>の一コマ
<良寛さん心の書道展(9 月 20 日～30 日)>の一コマ



平成 24 年 11 月 22 日 (木)
<長坂優さん アマゾンに夢を託して講演会>の一コマ

目 次

頁

I 教育委員会の会議及び委員の活動状況について	1
II 各重点目標・施策等の点検・評価		
◇重点目標 学校教育「出雲崎小学校グランドデザイン・特別支援教育・いじめ防止教育・防災教育について」	3
◇重点目標 学校教育「出雲崎中学校グランドデザイン・特別支援教育・いじめ防止教育・防災教育について」	11
◇重点施策 学校教育「学校・家庭・地域の連携充実について」	23
◇重点施策 学校教育「資料：全国学力状況調査・学力向上対策について（出小理科ほか）」	25
◇重点施策 社会教育「生涯学習の充実について」	27
◇重点施策 社会教育「歴史・文化の振興について」	33
◇重点施策 社会教育「体育・スポーツ活動の振興について」	42
◇重点施策 学校・社会教育 「施設の整備充実について」	45
III 学校支援地域本部コーディネーターの感想・評価	49
IV 学識経験者からの総合評価	50
V その他	51

I 教育委員会の会議及び委員の活動状況について

(1) 教育委員会の定例会・臨時会の開催状況

- 定例会 6回
- 議案等件数 ・ 議案 25 件 ・ 報告 7 件
- 臨時会 1回 (3月)
- 教育委員研修 「町議会（総務文教常任委員会）との意見交換会」 平成 24 年 1月 24 日/木」

(2) その他の参加活動状況

- ・転入教職員面識会 (4月 2日/月)
- ・小・中学校入学式 (4月 6日/金)
- ・町教育研究会研修会、総会 (5月 8日/火)
- ・出雲崎小学校運動会 (5月 26日/土)
- ・文化芸術鑑賞会 (6月 14日/木)
- ・県市町村教育委員会連合会総会 (7月 20日/金)
- ・町成人式 (8月 16日/木)
- ・出雲崎中学校体育祭 (9月 9日/日)
- ・出雲崎中学校吹奏楽部定期演奏会 (9月 23日/日)
- ・出雲崎小学校文化祭 (10月 28日/日)
- ・未来の夢こども体験講演会 (10月 17日/水)
- ・出雲崎小学校人権きずな集会 (11月 27日/火)
- ・生涯学習フェスティバル (11月 2日/金・3日/土)
- ・子育て教育講演会 (11月 10日/土)
- ・アマゾンに夢を託して長坂 優講演会 (11月 22日/木)
- ・学校施設営繕視察検討会 (11月 21日/水)
- ・出雲崎中学校いじめ根絶集会 (12月 7日/金)
- ・町議会議員と教育委員会委員との意見交換会 (H25年 1月 24日/木)
- ・町教育委員会表彰伝達式 (H25年 2月 25日/月)
- ・中学校卒業式 (H25年 3月 7日/木)
- ・出雲崎小学校 6年生総合学習発表会 (H25年 3月 13日/水)
- ・中学校卒業式 (H25年 3月 7日/木)
- ・小学校卒業式 (H25年 3月 25日/月)

►概要

平成24年度の教育委員会会議は、定例会や臨時会を開催しながら、教育行政・教育予算などの議案について審議を行った。また教育委員の方々は、地教行法の趣旨である「自覚と責任」を意識しながら、年間を通して学校行事や社会教育行事等に積極的に参加していただくななど、幅広い教育分野の中で活動いただいた。

►成果と課題

この項目については、学校教育や社会教育分野など多くの教育関係活動に、教育委員から出席・参加をいただいたことにより、教育委員としての資質の向上や、児童・生徒の授業・活動状況を把握できたものと考える。

また、委員研修として町議会議員との意見交換会を開催し、教育行政の在り方、今後の方向性など忌憚のない意見交換を行った。

なお、今後大きな課題として、全国的な問題となっている『いじめ問題』に教育委員会として、学校現場とPTA・保護者などと、どのような連携をしながら、『いじめ』の解消を図っていくか、その体制の充実を急がねばならない。



＜教育委員の活動の様子（学校の營繕施設調査）＞

II 各重点目標（課題）の点検・評価

<出雲崎小学校グランドデザイン>

重点目標	具 体 的 目 標
考えて聴く 考えて表す	<p>①内容をくみとりながら、聴くことができるようとする。</p> <p>(評価) 向上はあったが、目標を充分達してはいない。(B) ・話を聞く態度は、年度初めに比較すると良くなった。個人差、学年差がある。 ・要点を押さえて、聴き取ることに課題がある。</p> <p>②理由をつけて発表することができる。</p> <p>(評価) 特定の場面では向上が認められたが、実践的な力にはなっていない。(B) ・授業の発表等では向上が認められる。話し合い活動で応用がきかないことが多い。</p>
大切な自分 大切ななかま	<p>③自分のよさが分かり、よさを生かして行動できる。</p> <p>(評価) 7割以上の児童が「自分のよさを生かして行動している」自覚を持っている。(B) ・集会や行事だけでなく、日常の取組の中で意識されていた。 ・自己肯定感が低い児童が2割ほどいる。また、自分のよさが自覚できていない。</p> <p>④温かな言葉のかけあいができる。</p> <p>(評価) 使える言葉（温かな）が増えてきたが（8割以上の児童が言えると自覚）、日常生活では、傷つける言葉が使われることがある。(C) ・行事等で励ましの言葉のかけあいを振り返らせる活動の積み重ねが、成果を上げつつある。 ・学級でのきめ細かな取組がもととなされるとよい。 ・言葉づかいやあいさつが次年度の課題である。</p>
たくましい体 健康な生活	<p>⑤楽しく運動することができる。</p> <p>(評価) 保護者、児童とも8割以上が運動していることについて、肯定的評価をしている。体育が好きで意欲的に取り組む。(A) ・「ギネスに挑戦」やマラソン大会、大縄跳び大会などの行事で、カードを活用した意欲づけなどの活動が成果をあげている。</p> <p>⑥バランスのよい食事をとることができます。</p> <p>(評価) 好き嫌いなく食べようとする児童が増えてきた（児童の肯定的評価8割以上）。(A) ・ハッピーライフ（学校と保護者がカードを使って食事・睡眠等の生活チェックと振り返りをする活動）の取組や、栄養士と連携した食育の学級指導などで児童の自覚を高めてきた。次年度も継続して取り組んでいく。</p>



2年生国語 考えを説明する 内容を聴き取る



4年生理科 実験で確かめる



運動会 応援合戦 目標を共有する



食育 栄養バランスがとれたお弁当づくり



文化祭・学習発表会 練習の成果を発表する



マラソン大会 体力とがんばる力



主張集会 ノー原稿での発表！

小学校の授業・運動会・文化祭風景など

重点施策	学校教育「特別支援教育について」
取組の状況	<p>◎出雲崎小学校の取組</p> <p>(1) 全校体制による取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校内委員会を中心にして、実態を把握し、指導や支援の方策と実践評価を進めている。 ●個別の実態に配慮しながら、目標をもって指導、支援を継続し、自己有用感味わせ、自立を支援している。 <p>(2) 関係機関、保護者と連携を</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町教育委員会、保健福祉課、児童相談所、医師、心理士等との連絡を取りながら、実態に応じた「個別の支援計画」を作成し、一貫性のある支援を行っている。 ●特別支援コーディネーターと養護教諭が連携しながら、外部との連絡調整を行っている。 <p>(3) 継続的な交流学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個別の実態に応じて、通常学級との交流学習を積極的に進めてきた。 ●通常学級児童との温かい交流と共同活動を通して、豊かな人間性を目指している。



かるたを使っての学習



介助員とともに教える



視聴覚機器は有効



近隣の特別支援学級・学校との交流会

特別支援教育 取組の一コマ

重点施策	学校教育「いじめ防止教育・防災教育について」
取組の状況	<p>◎出雲崎小学校の取組</p> <p>□いじめ防止教育</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) いじめ防止学習プログラムを年間を通じて実践し、思いやりのある人間関係の育成と、いじめは許さないという気持ちと実践力を高めてきた。 (2) 学期に1回実施するいじめ根絶に向けた取組（行事）を行った。日常の取組を生かして臨み、振り返りを確実に行って、定着を図るようにした。 (3) 全校体制でいじめの予防とともに早期発見に努め、発見した場合には、速やかで確実な解決を図ってきた。 <p>□防災教育</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 危機回避能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・火災、地震、積雪時での火災を想定した避難訓練を年3回実施した。振り返り活動を確実に行い、状況に応じた行動の仕方を教えた。3回目の避難訓練は、「予告なし」「休み時間」という難しい設定で行った。 (2) 学校防災計画の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・避難口や避難経路、情報伝達の方法について、見直した。多くの改善点が図られた。 ・放射線教育、原子力災害対応への校内体制の整備を進めていく。 (3) 家庭や地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・津波を想定した町避難訓練への児童の積極的参加を促してきた。 ・安全マップの作成を行政と連携して行った。



いじめ根絶集会で発言する



遠足の後に思いやりの言動を振り返る



不審者から身を守る方法を警察官から教わる

いじめ防止教育・防災教育 取組の一コマ



ほなみが丘整備隊



長寿会の皆様と全校児童が草取り



読み聞かせボランティア



海水浴監視ボランティア

学校ボランティア事業 取組の一コマ



米づくり 農業委員会、農協、地域住民



クラブ活動講師（手芸）



昔話を聞く 地域住民



漁業学習 漁協



書道を習う

学校地域支援本部事業 取組の一コマ

4. 出雲崎中学校グランドデザイン



平成 24 年度 学校の目標とその達成計画 中間報告

市町村名	出雲崎町	学校名	出雲崎町立出雲崎中学校			電話番号	0258 (78) 2137
学級数	4	生徒数	102名	校長氏名	坂上 欣也		

(知) 意欲をもって、わかるまで、できるまで学ぶ生徒の育成

No.	評価項目	評価基準	評価	備考
① 成果	ア 基礎テストの合格率が 80 %以上になる。	A : 10 回 × 3 学年 = 30 の全てが 80 % を上回る。 B : 70 %を上回る。 C : B に到達しない。	C	1 学期 数① 96 ② 55 ③ 75 英① 60 ② 88 ③ 94 2 学期 数① 83 ② 71 ③ 70 社① 80 ② 67 ③ 81 理① 56 ② 3 ③ 5 英① 83 ② 62 ③ 75 3 学期 社① 44 ② 41 ③ 65 理① 68 ② 59 ③ 40
	イ 自分が分かったこと、考えたことを根拠を明らかにして他と意見交換することができる。	A : 発表時に、理由を述べることができる生徒が全体の 70 %を上回る。 B : 60 %以上。 C : B に到達しない。	A	国 85 社 81 数 82 英 100 音 84 (職員の一人一研究の授業後の生徒アンケート) *生徒の自己評価と実態は必ずしも合致していない。
	ウ 家庭学習を毎日行う生徒が 90 %以上になる。	A : 90 %以上。 B : 80 %以上。 C : B に到達しない。	A	94.8 %が毎日家庭学習を行っている。ただし、平均学習時間は 0.8 時間と少ない。 (1 学期学校生活アンケートより) 2 学期は平均学習時間が 0.7 時間に減った。
教育活動	ア 授業の初めに前時に習ったことを思い起こす。	A : 学習アンケートで、前時の想起が基礎基本の定着に役立ったという割合が 90 %以上。 B : 80 %以上。 C : B に到達しない。	A	前時の想起が基礎基本の定着に役立ったという肯定的評価 (%) 1 学期 国 99 社 92 数 97 理 98 英 100 2 学期 国 100 社 100 数 99 理 100 英 97
	イ 自分が分かったこと、考えたことを根拠を明らかにして他と意見交換する。	A : 学習アンケートで、根拠を明らかにして説明できたとする生徒が 70 %以上。 B : 60 %以上。 C : B に到達しない。	A	国 92 社 95 数 90 理 91 英 94 「話し合いに積極的に取り組めた」の肯定評価 (%)
	ウ 週末課題や各教科の宿題の取組を通して家庭学習を習慣化させる。	A : 宿題と自学をやった生徒の割合が 50 %以上。 B : 宿題はやった。 C : 宿題をしないことがある。	B	宿題を確實に行った肯定的評価 (%) 1 学期 国語 67 社会 64 数学 58 理科 68 英語 66 2 学期 国語 65 社会 76 数学 50 理科 63 英語 53
運営活動	ア 毎時間授業で前時の学習内容を確認する。	A : 実施率 80 %以上。 B : 70 %以上。 C : B に到達しない。	A	職員による学校評価アンケート 4 項評価で平均 3.4 (85 %) 3.6
	イ 根拠を明らかにして説明し合う言語活動を計画的に取り入れる。	A : 単元ごとに計画的に実施した。 B : 実施したが計画的ではなかった。 C : 言語活動の場を設定しなかった。	B	職員による学校評価アンケート 4 項評価で平均 2.8 (70 %) 2.9
	ア 週末課題提出の徹底と家庭学習に適した学習内容を提示する。	A : 学習内容を提示し評価した。 B : 学習内容を提示した。 C : 家庭学習をうながせなかった。	B	週末課題 提出率 96 % 提出されたものを点検し、返却。未提出者は星休みに実施。 宿題、ワーク等の提出物も点検し、返却。

② 成果	ア 総合的な学習の生徒アンケートで、自分が伝えたい内容を明確にできた生徒の割合が 70 %以上になる。	A : 全ての学年が 70 %以上。 B : 2 学年のみ 70 %以上。 C : B に到達しない。	A	1 年 63 % (出雲崎調べ発表) 93 % (職場体験発表) 2 年 100 % (出雲崎調べ発表) 100 % (新潟巡見発表) 3 年 80 % (修学旅行まとめ発表) 77 % (施設訪問発表)
	イ 進路に関する体験において各学年で段階的に設定した目標を達成した生徒が 90 %以上になる。	A : 全ての学年が 90 %以上。 B : 2 学年のみ 90 %以上。 C : B に到達しない。	B	1 年 100 % (良い 79 %、まあまあ 21 %) 2 年 100 % 上級学校調べで得た進路情報をお学年で共有した 3 年 82 % 施設訪問
教育活動	ア 活動を振り返り、自己評価・相互評価をすることによって、伝えたい内容が伝わったかを確認する。	A : 全ての学年が単元内で数回、自己評価や相互評価を行った。 B : 全ての学年が単元内で少なくとも 1 回は自己評価や相互評価を行った。 C : B に到達しない。	B	1 年生 3 回 (出雲崎調べ発表、夏休み 職業新聞、職場体験発表) 2 年生 2 回 (出雲崎町調べ発表、新潟巡見発表) 3 年生 2 回 (修学旅行発表、福祉施設訪問発表)
	イ 訪問や交流の前に立てた目標を達成する。	A : 全ての学年が 90 %以上。 B : 2 学年のみ 90 %以上。 C : B に到達しない。	C	2 年生 86 % (新潟自主研修: 自律という目標) 1 年生 96 % (職場体験: 元気にあいさつ、礼儀正しい態度) 3 年生 80 %
運営活動	ア 活動記録用紙等を活用し、追求を深めるためのアドバイスを行う。	A : 活動記録用紙で生徒の活動を見取り、助言することができた。 B : 活動記録用紙で生徒の活動を見取ることができた。 C : B に到達しない。	B	職員による学校評価アンケート 4 項評価で平均 2.8 (70 %) 2.5
	イ 訪問や交流の準備からまどめまで最終目標を意識させながら進める。	A : 90%以上の施設から生徒の訪問態度について肯定的な評価を得た。 B : 70 %以上の施設から生徒の訪問態度について肯定的な評価を得た。 C : B に到達しなかった。	A	2 年生 新潟自主研修訪問先より「聞く態度が良い」「しっかりあいさつしていた」など肯定的な評価を得た。 1 年生 100 % 職場体験 3 年生 アンケートの回答があった施設では、生徒たちの態度は全て「大変良い」と評価された。

平成24年度 学校の目標とその達成計画

〔徳〕お互いを思いやる、心優しい生徒の育成

No.	評価項目	評価基準	評価	備考
③ 成果	ア 学級はよい友達関係で安心して過ごせると実感している生徒の割合が高くなる。	A:学校アンケートで肯定的な評価をする生徒の割合が95%以上である。 B:肯定的な評価をする生徒の割合が90%以上である。 C:肯定的な評価をする生徒の割合が90%未満である。	A A	学校生活アンケート 「クラスに安心して一緒に過ごせる友達がいる。」 95% → 100% 無記入9人 「学校は安心して過ごせる。」 97% → 96% 紳アンケート 「学校に来るのが楽しい」 92%
	イ 自分の役割を進んで果たし、集団への貢献を自覚できる生徒の割合が高くなる。	A:学校生活アンケートで80%以上の生徒が肯定的評価をする。 B:70%以上の生徒が肯定的評価をする。 C:肯定的評価をする生徒が70%を下回る。	C C	学校生活アンケート 「自分は、クラスや委員会の中で、全体の役に立っていると感じる。」 59% → 66% 1年 21% → 60% 2年 41% → 46% 3年 89% → 88% 紳アンケート 「自分は周りの役に立っている」 89% 1年 85% 2年 86% 3年 95%
教育活動	ア ソーシャルスキルトレーニングや道徳の授業を通して人間関係について考えたり身につけたりする。	A:授業の振り返りで肯定的な評価をする生徒の割合が90%以上である。 B:肯定的評価をする生徒の割合が80%以上である。 C:肯定的評価をする生徒の割合が80%未満である。	B	職員学校評価アンケート 「生徒の実態に基づき、人間関係を育てるソーシャルスキルや道徳の授業を各学期に1回以上実施する。(学級担任)」 実施した 4人 実施しなかった 2人 6人 1人
	イ 委員会の日常活動を確実に行い、クラスに貢献する。	A:学校生活アンケートで委員会の日常活動を確実に行い、クラスに貢献することができたとする生徒が80%以上である。 B:70%以上である。 C:70%未満である。	A A	学校生活アンケート 「専門委員会の仕事を責任をもってやり遂げた。」 87% → 96% ※各学年とも評価は高い。成果イにつながっていかない。
運営活動	ア 年5回の生徒の意識調査をもとに継続的に教育相談を実施する。	A:意識調査をもとに継続的に教育相談を行う。 B:計画に従って教育相談を全員に行う。 C:全員にできなかった。	B B	職員学校評価アンケート 「悩み調査」と「がばいシート」を確実に行い、それをもとに生徒を見取り、継続的な教育相談を行う。(学級担任) A意識調査をもとに継続的に教育相談を行う。4人 → 6人 B計画に従って教育相談を全員に行う。2人 → 1人
	イ 全ての職員が生徒会活動の動きを把握し、それに基づいて各委員会の活動を指導し日常活動が円滑に進めるようにする。	A:すべての職員が、評議委員会に学期に1回は参加し、生徒の活動を見取り、担当委員会の活動に生かしている。 B:80%以上の職員が評議委員会に学期に1回は参加している。 C:評議委員会に学期に1回参加した職員が80%未満である。	B A	職員学校評価アンケート 「1学期中に必ず1回は評議委員会に参加し、各担当の生徒会活動に生かす。(全職員)」 83% → 100%
④ 成果	ア 相手の立場を考えて行動している生徒の割合が高くなる。	A:相手の立場を考え、行動できたと回答する生徒が90%以上である。 B:相手の立場を考え、行動できたと回答する生徒が80%以上である。 C:相手の立場を考え、行動できたと回答する生徒が80%未満である。	B B	学校生活アンケート 「自分は、まわりや相手のことを考えて行動したり、時と場にふさわしい行動をとったりしている。」 86% → 87% 1年 78% 2年 87% 3年 94% 紳アンケート 「周りの人の気持ちを考えて行動する。」 61% 1年 33% 2年 64% 3年 82%
	イ 奉仕活動後のアンケートで充実感を味わった生徒の割合が高くなる。	A:奉仕作業に参加して、充実感を味わった生徒が95%以上である。 B:充実感を味わった生徒が80%以上である。 C:充実感を味わった生徒が80%未満である。	A	1学期は資源物回収・P.T.A奉仕活動を行った。95%の参加率で一生懸命取り組むことができた。 2学期 町体・町球清掃 参加率97% 校舎磨き 参加率98% 満足感100%
教育活動	ア 諸活動で、相手の立場に立って話をしたり行動したりする。	A:訪問活動の事後アンケートで肯定的な評価をする生徒の割合がどの学年も95%以上である。 B:どの学年も80%以上である。 C:80%に達しない学年がある。	B B	1年 職場訪問 ・体験先では挨拶や礼儀をきちんとできた。96% ・職場の人やお客様に真剣に心をこめて接することができた 96% 2年 新潟巡検 「班活動では、相手の立場や意見を尊重し協力することができた。」 88% 3年 福祉施設訪問 ・相手の立場に立って接することができた。89% ・自分の思いを相手に伝えることができた。77%
	イ 生徒会が企画した奉仕活動に積極的に参加する。	A:積極的に参加する生徒が95%以上である。 B:積極的に参加する生徒が90%以上 C:積極的に参加する生徒は90%未満。	A A	成果イに同じ。
運営活動	ア 校外活動の前に適切な事前指導を行う。	A:職員アンケートで事前事後の指導が適切であったとする回答が100%である。 B:90%以上である。 C:90%未満である。	C A	職員学校評価アンケート 「総合学習・校外生活委員会など校外活動の事前事後指導において、相手の立場に立った言動についての指導を行う。」 71% → 100%
	イ 奉仕活動の事前事後指導を行う。	A:すべての活動について、事前事後指導を行う。 B:指導を行わない活動が1つある。 C:指導を行わない活動が2つ以上ある。	A B	職員学校評価アンケート 1学期に行われた資源物回収、その後の奉仕活動(ワックス塗り)において、奉仕活動の意義を理解させ、生徒のより主体的な取組を促す事前・事後指導を行った。 100% 2学期に行われた「町体・町球清掃」「校舎磨き」において、奉仕活動の意義を理解させ、生徒のより主体的な取組を促す事前・事後指導を行った。 77%

[体] 目的をもって、自己に挑戦し、自ら鍛える生徒の育成 平成24年度 2月報告

No.	評価項目	評価基準	評価	備考
⑤ 成果	ア 新体力テストで、個々の合計得点が全国平均を上回る。 新体力テストより	A : 70%以上の生徒が、全国平均を上回る。 B : 上記65%以上70%未満。 C : 上記Bに達しない。	C	<ul style="list-style-type: none"> 結果 57% → (昨年度) 59.5% 1年生 57% (男71%、女43%)、2年生 45% (男56%、女35%) 3年生 68% (男63%、女71%) であった。 総合評価では、女子1~3年、男子3年がB、1・2年男子がC判定であった。年々評価が低下している。 体力の低下を県平均と比較すると、県平均を上回る項目の変移は、20年度47項目、21年度42項目、22年度40項目、23年度37項目、24年度37項目であった。
	イ 運動に親しみ、自分の体力に向上が見られる。 学校生活生徒アンケートより	A : 80%以上の生徒の体力に向上が見られる。 B : 上記70%以上80%未満。 C : 上記Bに達しない。	B	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末結果 79% 2学期末結果 78% (昨年度 74%) 学校生活アンケートでは1年生 61%、75%↑、2年生 79%、75%↓、3年生 87%、75%↓である。昨年度と比べ、1・3年生の数値が上昇している。80%に近づく結果となったが、A判定には達しなかった。球技大会などの趣旨が、体力の向上よりも集団の团结力に趣が置かれている結果であると思われる。しかし、体力テストの結果からは、二極化傾向など課題が多い。
教育活動	ア 授業で行う体力トレーニングを質量ともに高い目標を持って行う。 保健体育授業アンケートより	A : 80%以上の生徒が、質量共に高い目標を持って取り組む。 B : 上記70%以上80%未満。 C : 上記Bに達しない。	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末結果 88% 2学期末結果 95% (昨年度 92%) 授業アンケートでは、1年82%、89% (男100%、女79%)、2年79%、97% (男100%、女94%)、3年100%、97% (男女とも100%が男97%) であった。 単調なトレーニングにボール運動を組み合わせるなどの工夫をした結果、1、2年の数値が上昇している。来年度へつなげるようしていきたい。
	イ 部活動で培った能力を生かし、体育的行事に目標をもつて意欲的に取り組む。 学校生活アンケートより	A : 80%以上の生徒が、意欲的に体育的行事に取り組む。 B : 上記70%以上80%未満。 C : 上記Bに達しない。	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末結果92%、2学期の結果94%↑ (前年度97%) 学期末生徒アンケートでは、1年75%、86%↑、2年97%、94%↓、3年100%、100%であった。マイナス評価の生徒は、男子は2名、女子4名である。4点法による数値比較では、1、2年女子が2点台と男子に比べ運動を苦手にしている生徒が多く、評価が低い状態である。女子の体力強化が必要である。
運営活動	ア 新体力テストの結果を分析し、生徒一人一人の課題に対して目標をもたせたトレーニングを行う。 新体力テスト2回目結果より	A : 80%以上の生徒の体力が向上する。 B : 上記70%以上80%未満。 C : 上記Bに達しない。 新体力テストの種目中、室内で行う6種目を秋に再測定する。	C	<ul style="list-style-type: none"> 1年 3種目以上77% 2種目21% 1種目 2% なし 0% B 2年 3種目以上84% 2種目13% 1種目 3% なし 0% A 3年 3種目以上39% 2種目36% 1種目14% なし11% C 全校で3種目以上記録を伸ばした生徒は、65%であった。(昨年度は29%) 1種目でも体力が向上した生徒は96%であり、昨年度よりも数値が高かった。反面、数値が下がった生徒も1年21%、2年16%、3年50%と予想以上に多かった。
	イ 体力向上に向けた取り組みの現状と対策について職員や保護者に周知する。 実際のたよりの回数より	A : 年間に3回行う。 B : 年間に2回行う。 C : 上記Bに達しない。	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へのたよりとしては、学校保健委員会だより、各学年のたよりで紹介している。職員に対しては、体力テストの結果を部活動顧問に配布し、指導に役立てている。

⑥ 成果	ア 6~8時間の睡眠時間を確保できる生徒を増やす。 元気アップ週間結果より	A : 90%以上の生徒が6~8時間の睡眠をとっている。 B : 80%以上の生徒がとっている。 C : Bに満たない。	5月 81.4% 7月 82.0% 9月 78.1% 11月 76.7% 平均 79.6% C	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の時間の確保が十分でなかったり、メディアの利用時間が多く睡眠時間が短い生徒がいる。時間の使い方を学習していく必要がある。 昨年度の11月時点の平均は92%であった。
	イ バランスの取れた朝食を摂取して登校する生徒を増やす。 元気アップ週間結果より	A : バランスの良い朝食(主食・主菜・副菜)摂取80%以上 B : 70%以上 C : Bに満たない。	5月 67.5% 7月 66.7% 9月 69.6% 11月 65.5% 平均 67.3% C	<ul style="list-style-type: none"> 休日も含め、ほとんどの生徒が朝食を摂っている。 主食、主菜、副菜を揃えて食べることができない生徒が多い。 バランスの良い食事の大切さを理解させ、バランスの良い食事を摂るために工夫について情報提供していく必要がある。 昨年度の11月時点の平均は、62.9%であった。
教育活動	アイ よりよい生活習慣を目指して、元気UP週間に積極的に取り組む。	元気UPカードの取組状況 (元気UPカードへの目標と反省の記入) A : 100% B : 90%以上 C : Bに満たない。	A	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が目標・反省を記入し提出している。 保護者からのコメントがしっかりと記入されている。
	アイ 元気UP週間期間中に、各学級でショート保健指導を実施する。	A : 毎回実施した。 B : 3回以上実施した。 C : Bに満たない。	A	<ul style="list-style-type: none"> 各担任が終学活等を利用し確実に行っている。
運営活動	アイ 元気UP週間の取組の状況を、職員・保護者に知らせる。	A : 年間5回以上発信した B : 3回以上発信した。 C : Bに満たない。	/	<ul style="list-style-type: none"> 現段階は3回の元気アップ週間にごとに確実にたよりを発行している。 保護者から意見を聞ける機会があるとさらに内容が広がる。
	アイ 学校保健委員会を1回開催し、生活習慣の問題について、当校の問題点や改善策について話し合う。(夏に開催予定)	A : 実施し、参加者から肯定的な感想を得られた。 B : 実施したが、有効ではなかった。 C : 実施しなかった。	A	<ul style="list-style-type: none"> 7月27日(金)に開催した。今年度は小学校、町保健福祉課と共催で行ったため、乳児~老人までの実態がわかり、参加者には高評価であった。その後9月14日に学校保健だよりを発行し、学校保健委員会の活動や生徒の現状を保護者に知らせることができた。

II 各重点目標(課題)の点検・評価

< 出雲崎中学校 >

重点目標	① 意欲をもって、わかるまで、できるまで学ぶ生徒 ② 目的をもって自己に挑戦し、自ら鍛える生徒 ③ お互いを思いやる、心優しい生徒
① 意欲をもって、わかるまで、できるまで学ぶ生徒	<p>(内容) 基礎・基本を確実に定着させ、活用する力を身に付ける。</p> <p>(評価) ・家庭学習の時間が少ない傾向にある。 ・粘り強い教員の取組の成果から、週末課題などの提出物の忘れ物が少なくなってきた。 ・基礎テストの合格率が上がっていない。</p> <p>(内容) 学習したことを言語活動を通して補充・深化・発展させるとともに、根拠を明らかにして説明する力を伸ばす。</p> <p>(評価) ・話し合いに積極的に参加できたかでは、92%が肯定的な評価をしている。</p> <p>(内容) 「総合的な学習の時間」をとおして、調べたり考えたりしたことをしっかりと伝えたり、進路に関する目標をもつ生徒を育成する。</p> <p>(評価) ・体験学習を充実させるためには、活動時間が不足しがちだった。 ・調べたり考えたりしたことを発表することにより、表現力を一層身に付けることができた。</p>
② 目的をもって自己に挑戦し、自ら鍛える生徒	<p>(内容) 体力テストで、全国平均を上回る生徒を70%以上にする。</p> <p>(評価) ・結果は57%であった。(昨年度は60%)</p> <p>(内容) 6~8時間の睡眠時間を確保し、「早寝・早起き・三度の食事」という生活リズムを確立する。</p> <p>(評価) ・睡眠時間の確保は、75.7%であった。 ・バランスの良い朝食をとっているは、68%であった。</p>

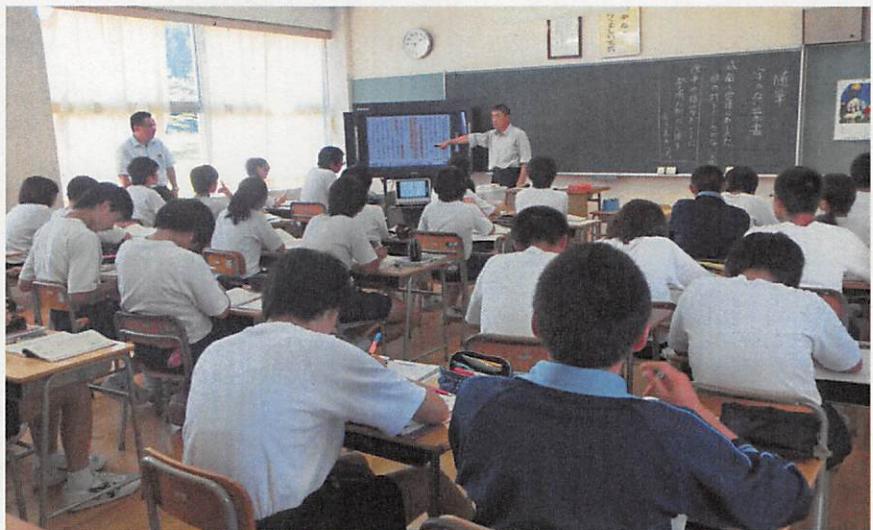
<p>③ お互いを思いやる、心優しい生徒</p>	<p>(内容) よい友だち関係で安心して過ごせると実感できる学級づくり、相手の立場を考えて行動する生徒の育成を進めます。</p> <p>(評価) ・「クラスで安心できる友達」は、回答した生徒の 100% が、肯定的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に来るのがたのしい」は、92%が肯定的。 <p>(内容) 人に頼らず自分のことは自分でする生徒、自分の役割を進んで果たして集団への貢献を自覚できる生徒の割合を向上させる。</p> <p>(評価) ・奉仕作業（町体清掃・校舎磨き）に参加して充実感を味わった生徒は、100%であった。（参加率 97%）</p>
--------------------------	---

重点施策	学校教育「特別支援教育について」
	<p>◎出雲崎中学校の取組</p> <p>□重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学習や生活に支援の必要な生徒の実態を把握し、もてる能力が十分発揮できるようにする。 (2) 基本的な生活習慣を身につけさせる。 (3) 通常学級の生徒に、特別支援学習指導を受けている生徒を理解し、仲間意識をもたせる。

重点施策	学校教育「いじめ教育・防災教育について」
	<p>◎出雲崎中学校</p> <p>□いじめ教育</p> <p>(1) より良い人間関係づくりや相手の立場を思いやる心の育成を大切にする。</p> <p>(2) 生徒の実態に応じた指導方針を決め、全職員が共通理解をもって指導に当たる。</p> <p>(3) 「いじめ根絶集会」などをとおし、生徒会活動にも取り入れ、いじめを許さない学校づくりを目指す。</p> <p>□防災教育</p> <p>年2回の学校での避難訓練を実施。 本年度は、火災における避難訓練と不審者に対応する訓練を実施した。</p>



1年生授業風景



2年生授業風景



3年生授業風景



体育祭風景



合唱コンクールの様子



全校書道大会の様子



あいさつ運動



募金活動



町民体育館の清掃ボランティア



不審者対応訓練の様子



《さわらび学級 活動の様子》

重点施策	学校教育「学校・家庭・地域の連携充実について」
►取組みの状況	<p>►主な取組み</p> <p>① 学校支援地域本部事業（H20年度から5年目）</p> <p><u>出雲崎小学校→</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生：生活「地域のお年寄りと交流、山菜料理、かとり、サツマイモ栽培・収穫・料理活動」 ・2年生：生活「町探検、梅もぎ、朝市体験、野菜づくり、収穫祭活動」 ・3年生：総合・社会「昔話を聞く、ふるさと料理、ジャガイモ栽培・収穫活動」 ・4年生：総合・社会「ジャガイモ栽培・収穫、出雲崎の環境について学習」 ・5年生：総合・社会「コメの栽培・収穫・料理・出雲崎の食を体験」 ・6年生：総合「出雲崎の人の生き方について勉強、職場体験を実施」 ・その他：文化祭時に児童、保護者全員参加のカレーライス試食会の開催 <p><u>出雲崎中学校→</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生：「交通安全教室・総合学習 ①出雲崎調べ②職場体験（町内の事業所や施設訪問）・美術学習（東京芸大生による、街並みの絵カッティング指導）」 ・2年生：「総合学習（新潟巡査 職場訪問）」 ・3年生：「美術学習（墨絵教室）・人権擁護活動（生徒会と出雲崎町・柏崎市人権擁護委員との人権活動・総合学習（福祉学習 認知症ポータル講座ほか）」 <p>② 学校ボランティア活動事業（H24年延べ1,000人超が参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理関係、畑作業、学校安全パトロール、読書読み聞かせ、歴史、街並ガイド、ふるさとクラブ、環境整備事業（グラウンド除草作業・校舎内整備） 等々 <p>③第6回未来の夢子ども体験講演会 (10月17日/水：元なでしこジャパン・東京国際大学女子サッカーチーム監督大竹七未氏による講演会)</p>

	<p>④学生俳句教室 (4・5・6年生を対象に各学年で年5回開催)</p> <p>⑤第2回文化芸術鑑賞会 (6月14日/木:太鼓集団『鼓動』による公演に小中学生、一般町民約700人が参加)</p> <p>⑥4回子育て教育講演会 (11月10日/土:親業訓練協会シニアインストラクター関崎智弥様による講演会小中学生、一般町民200人が参加)</p> <p>⑦第8回良寛の心書道展 (9月20木～30日/日まで300点の作品を展示:小中学生参加)</p>
--	---

►概要

学校・家庭・地域の連携のなかで地域と歩む特色ある学校づくりを推進してきた。学校支援地域本部事業については、本年度で5年目に入り、様々な取組みをしながら、成果を上げてきた。その他、学校ボランティア活動や未来の夢講演会も、年々好評であり、文化芸術鑑賞会や子育て講演会など、児童・生徒の情操教育には、かかせない事業となっている。

また、保護者や地域の人達が子供とのふれあい方、接し方など大変参考になる、特色ある事業を展開してきた。

►成果と課題

学校支援本部事業では、各学年で取組みの内容を検討しながら、実施しているが、多くの町民の方々からボランティアに参加していただいた。

本年度も延べ1,000人を超えるボランティアから、ご協力いただき、まさしく学校を地域みんなで盛り上げてきている。また未来の夢講演会や俳句教室、文化芸術鑑賞会など、年々、事業内容の充実を図りながら、感性豊かな心の教育を今後も進めていきたい。

町教委だより

No. 7

H24.10.24 出雲崎町教育委員会

全国学力学習状況調査

全国学力学習状況調査の結果が、各学校にも届いていることだと思います。各学校では、結果の分析及び活用が図られているでしょうか。出雲崎町では、数年来“家庭学習”的時間的な不足が指摘されています。家庭学習に関するアンケートの項目から、家庭学習に対する子ども達の意識をまとめてみました。

【月曜から金曜までの家庭学の時間】

1 (3時間以上) 2 (2~3時間) 3 (1~2時間) 4 (30分~1時間)
5 (30以下) 6 (全くしない)

※単位は%

◎小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6
出 小	0.0	5.6	27.8	58.3	8.3	0.0
県平均	3.5	10.8	53.2	26.9	4.6	1.0
全国平均	11.1	14.5	33.9	26.1	10.5	3.8

◎中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6
出 中	0.0	13.5	37.8	29.7	16.2	2.7
県平均	2.8	15.8	36.1	24.5	13.5	7.3
全国平均	9.9	25.4	31.1	16.9	9.7	6.9

小学校では、1日2時間以上家庭学習をしている児童の割合で区切ると次のようになる。

出小 5.6%、県平均 14.3%、全国平均 25.6%

更に1時間以上の学習している児童の割合で区切ると次のようになる。

出小 33.4%、県平均 67.5%、全国平均 59.5%

次に、中学校で1日2時間以上家庭学習をしている生徒の割合で区切ると次のようになる。

出中 13.5%、県平均 18.6%、全国平均 35.3%

更に、1時間以上学習をする生徒の割合で区切ると、次のようになる。

出中 51.3%、県平均 54.7%、全国平均 66.4%

【土曜・日曜の家庭学習の時間】

1 (4時間以上) 2 (3~4時間) 3 (2~3時間) 4 (1時間~2時間)
5 (1時間以下) 6 (全くしない)

※単位は%

◎小学校

選択肢	1	2	3	4	5	6
出 小	0.0	2.8	16.7	38.9	36.1	5.6
県平均	2.3	3.3	10.9	46.3	32.6	4.6
全校平均	6.6	5.1	12.2	31.7	33.6	11.3

◎中学校

選択肢	1	2	3	4	5	6
出 中	2.7	0.0	24.3	32.4	37.8	2.7
県平均	3.9	8.0	20.7	32.3	25.1	10.6
全国平均	4.9	11.3	22.6	26.4	21.4	13.3

小学校では、休業日に家庭学習をする時間を3時間以上で区切つてみると次のようになる。

出小 2.8%、県平均 5.6%、全国平均 11.7%

更に、2時間以上で区切ると次のようになる。

出小 19.5%、県平均 16.5%、全国平均 23.9%

次に、中学校の結果を3時間以上で区切った場合は、次のようになる。

出中 2.7%、県平均 11.9%、全国平均 16.2%

更に、2時間以上で区切った場合は、次のようになる。

出中 27%、県平均 32.6%、全国平均 38.8%

このように、小学校でも中学校でも日々の学習時間の絶対数が不足していることが数値の上からも現れている。

各学校では家庭学習の充実のために、「宿題」を中心とした指導が行われているのが現状であろう。それでは、子ども達は、“宿題”をどのように捉えているのであろうか。

【家で宿題をやっている】

1 (している) 2 (どちらかと言えばしている) 3 (あまりしていない)

4 (全くしていない) ※以下の項目でも、選択肢の内容は同じ。単位は%

◎小学校

選択肢	1	2	3	4
出 小	83.3	11.1	5.6	0.0
県平均	87.9	9.3	2.2	0.5
全国平均	87.5	9.1	2.3	0.7

◎中学校

選択肢	1	2	3	4
出 中	81.1	8.1	10.8	0.0
県平均	57.2	28.0	11.1	3.7
全国平均	60.1	25.6	10.0	4.2

“宿題”をやっている児童や生徒の割合は、県や全国と比べると出雲崎町の子ども達が高い数値を示している。しかし、次の設問に対する回答から興味深い結果が読み取れる。

【家で予習をしている】

◎小学校

選択肢	1	2	3	4
出 小	11.1	33.3	38.9	16.7
県平均	14.6	27.1	41.4	16.9
全国平均	15.6	24.9	37.8	21.7

◎中学校

選択肢	1	2	3	4
出 中	0.0	8.1	40.5	51.4
県平均	5.5	15.7	38.7	40.1
全国平均	9.2	20.1	37.4	33.1

【家で復習をしている】

◎小学校

選択肢	1	2	3	4
出 小	5.6	30.6	52.8	11.1
県平均	20.1	34.4	34.0	11.3
全国平均	19.9	30.3	32.7	17.0

◎中学校

選択肢	1	2	3	4
出 中	0.0	24.3	51.4	24.3
県平均	11.7	29.6	35.6	22.9
全国平均	15.1	30.4	33.0	21.3

家庭学習は、学習内容の定着や学習意欲の喚起に重要な役割を持っています。そのため、どの学校でも家庭学習を充実させる取組を行なっています。多くの学校では、家庭学習を定着させるための手段として「宿題」を重視しているのではないかでしょうか。

教員が「宿題」を重視する背景として、「宿題」には“学習内容の定着”または“次時の準備”的意味がある、言い換えるならば、「宿題」をすることは、授業の“予習”や“復習”をすることであると考えているのです。しかし、上記のアンケートの結果からは、子ども達には「宿題」は授業の“予習”や“復習”をすることであるという意識は全く感じられません。子ども達は、「宿題」を教員が毎日課す単なる「ノルマ」であるという捉え方をしているのではないかでしょうか。

家庭学習を充実させるためには、「宿題」と「授業」の結びつきを明確にすることが重要だと考えています。出された「宿題」が授業の定着(復習)になる。「宿題」をやることが、次の授業の準備(予習)になる。何のための「宿題」なのか、子ども達に意識をさせて行うことが、家庭学習の定着に結びつくのではないかでしょうか。

更に、「授業」と「宿題」(家庭学習)を結びつける工夫も必要です。子ども達は、家庭学習を行うことが授業のより確かな理解につながることを知ることによって、家庭学習に対する意欲も高まると思われます。「授業」→「家庭学習」→「授業」というサイクルが出来上がることによって、子ども達の家庭学習に対する意識が変わってくると考えています。

“ドリルを行うことが家庭学習である”“漢字や計算練習が家庭学習である”と考えている子ども達に、授業に結びつく家庭学習を期待しても難しいと思います。当然、家庭学習の指導にも発達段階に応じた指導が必要です。小・中の9年間を見通して、どの段階でどんな指導を行うことが必要なのかを考えることが、家庭学習の充実につながると思います。

平成24年度出雲崎小「学力向上対策」

市町村名 出雲崎町 学校名 出雲崎小学校 学級数 10 児童数 199 校長名 松永 哲郎 研究主任名 中島 喜美子 電話番号 0258(78)2205

自校の実態	1 学力テストから(H23年度はCRT全国比、H22年度以前はNRTの偏差値。)																	
	〈国語〉				〈算数〉				〈社会〉				〈理科〉					
	検査月日	2年	3年	4年	5年	6年	2年	3年	4年	5年	6年	6年	4年	5年	6年	全国平均		
	H 24.2*	105	99	96	104	103	102	98	108	108	107	105	97	92	98	100		
	H 23.2		53.1	54.0	53.6	56.8		54.0	54.8	56.2	58.1							
	H 22.2			54.3	52.3	53.6			54.5	54.0	52.9							
	H 21.2				53.1	55.5				52.4	58.0							
	H 20.2					53.5					55.0							
国語	○「読むこと」は全体として定着している。 △2つの学年で「書くこと」「言語事項」が全国平均を下回った。「目的や段落に気を付けて書くこと」「言語に関する知識」の力の育成を図る。				算数	○ほとんどの学年や領域で全国平均を上回った。 △1つの学年で「量と測定」「図形」「数量関係」の領域で全国平均を下回った。各内容のポイントを確実におさえていく。 3年生以上の学年で算数でTT指導や少人数指導を行い、きめ細かな学習指導をする。				社会	○全国平均を上回った。 △「物質の性質と温度」等、特に落ち込んでいる分野で補習をする。 4年以上の理科担当に級外を当て、学習の準備や後片付け等が十分できるようする。				理科			
	2 日ごろの様子から ○与えられた学習課題に真面目に粘り強く取り組むようになった。 △課題意識をもって真剣に聴いたり、自分の考えを明確に分かりやすく話したりする力が弱い。																	
観点	校内研修				日々の授業				Web配信集計システム									
平成23年度の取組	校内研修テーマを「思考力・判断力・表現力の育成～主発問と言語活動に焦点を当てて～」とした。児童の考えを広げ深める主発問と、本時のねらいを達成するために有効な言語活動の在り方を探り、児童の考えをより深めることができた。				児童の考えを広げ深める主発問や言語活動を多様な教科や場面で考えて実践するようになった。また、「めあて」「まとめ」のプレートを活用し、児童の意識を明確にすることで、1時間1時間の授業の価値を高めることができた。				テスト結果から補習の必要な内容を把握し、確実に復習した。また、授業の進め方も反省し、単元によって少人数指導とTT指導を使い分け、成果を上げることができた。									
本年度の重点	〔考えて聴く・考えて話す工夫をしよう〕 校内研修テーマを「思考力・判断力・表現力の育成～『考えながら聴いたり話したりする』活動に焦点を当てて～」とした。観点をもって真剣に聴いたり、自分の考えを理由や根拠を付けるなどして意見交流での確に深め合い、基礎基本を身に付けていくようとする。				〔『聴く・話す』力を高めて、・ 考えを広げ深める授業をしよう〕 「授業改善のポイント2012」に示された⑦「理解や考えを深める話し合い活動」や授業全体で、『考えて聴く・考えて話す』力を高め、児童の考えを広げ深められるようにする。				〔Web配信集計システムで授業改善をしよう〕 結果を定期的・継続的に分析し、授業の在り方を振り返る。また、サポート問題を行って確実に補充したり授業改善を行ったりする。									
取組事項	① 改善策を指導案に明記し、公開授業を全員が行う。 ② 公開授業後の協議会で具体策について成果や課題を明らかにし、それを基に全員が授業改善に役立る。 ③ 協議会の参観者の集約意見や研修だより(学期毎、研究主任作成)を示し、授業改善の具体策を全員で共通理解し実践できるようにする。				授業者は、児童が考えを広げ深めていけるように、主発問や学習活動を工夫し、考えながら聴いたり話したりする手立てを明確にした授業を構想して、実践・検証する。				Web担当は分析結果を毎回学級担任や全員に伝える。授業者は、その結果や改善策を基に授業改善を行う。また、長期休業に教務が研修日を設定し、授業改善策を全体で共通理解し、全員で授業改善に取り組む。									
進捗状況の確認	1学期後(8月)と3学期(1月)に公開授業「考えて聴く」「考えて話す」取組の成果や課題をまとめた研修だよりを研究主任が示し、共通理解を図る。				8月と1月に全職員で授業改善について情報交換を行い、「考えて聴く」「考えて話す」取組の成果と改善点を共通理解し、その後の取組を行う。				毎月の分析結果を8月と1月に学力向上部会で検討し、成果のあった取組や改善策を検討し、全職員に示し日々の授業に反映させる。									
進捗状況	8月に2つの公開授業を基に研修だよりを研究主任が示し、取組の成果や課題を共通理解した。最終的な全体のふり返りは、2月に行う。				8月に「考えて聴く」「考えて話す」取組の成果と改善点を全職員で意見交換し、各学級で取り組んだ。				Web担当から毎月の成果と改善点を示し。全職員で共有し、授業改善に生かすように努めている。個別の取組状況も独自にまとめて、個別の対応に役立てている。									

重点施策	社会教育「生涯学習の充実について」
►取組みの状況	<p>1 生涯学習・公民館事業の充実について</p> <p>►主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ①青少年教育事業 <ul style="list-style-type: none"> ・めばえ教室 (1歳から3歳児対象:年間17回開催、15組の親子述べ202人が参加) ・出雲崎ッズ (小学生1年から6年生対象:年間4回開催、延べ97人が参加) ・子育て教育講演会 (11月10日開催、親業訓練協会シニアインストラクター、関崎智弥さんから『子どもがやる気になる一言』と題し講演いただき、200人が参加) ②成人教育事業 <ul style="list-style-type: none"> ・出雲崎総合大学 (年間15回開催、文化コース・理科コース・歴史コースの3コース、に延べ392人が参加) ③町民文化教室事業 <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン教室 (延べ16回開催、年賀状作成コース・ワード活用コース・エクセル活用コースの3コース、延べ90人が参加) ・料理教室 (年間3回開催、延べ28人(うち小学生3人が参加)) ・英語教室 (保育園年中・年長児対象:月1回開催) ・ガーデニング教室 (年間7回開催、延べ92人が参加) ・絵画教室 (平成24年度新規事業) (春～秋コース11回開催、延べ111人が参加した、生涯学習フェスティバルに作品を展示するなど、教室の成果が顕著に表われた。 参加者から冬にもぜひ教室を開催してもらいたいという声があり、冬期講座として1月から3月迄6回追加開催する。)

2 図書館事業の活動について

▶主な取組み

- ・幼児への絵本贈呈 (20組×2冊=40冊贈呈)
- ・親子文庫
(2冊×84セット=168冊貸出、[対象: 小学2~5年生])
- ・除籍図書の無料配布
(生涯学習フェスティバル時において約700冊を無料配布)

▶図書館(海公・中公)の利用データ

・年間利用者数

- H21年度: 2,071人 (海公 1,286人・中公 785人)
- H22年度: 1,922人 (海公 1,242人・中公 680人)
- H23年度: 1,985人 (海公 1,352人・中公 633人)
- H24年12月末: 2,108人 (海公 1,583人・中公 525人)

・貸出冊数

- H21年度: 3,250冊 (海公 2,134冊・中公 1,116冊)
- H22年度: 3,150冊 (海公 1,892冊・中公 1,258冊)
- H23年度: 3,403冊 (海公 2,301冊・中公 1,102冊)
- H24年12月末: 2,711冊 (海公 1,770冊・中公 941冊)

・蔵書数

- H21年度: 38,118冊 (海公 18,576冊・中公 19,542冊)
- H22年度: 38,435冊 (海公 18,778冊・中公 19,657冊)
- H23年度: 39,276冊 (海公 19,149冊・中公 20,160冊)
- H24年12月末: 40,013冊 (海公 19,487冊・中公 20,526冊)

・図書リクエスト数

- H21年度: 15件
- H22年度: 41件
- H23年度: 61件
- H24年12月末: 28件

▶概要

生涯学習や公民館事業については、青少年、成人向けに分けて事業展開をしてきた。特に出雲崎総合大学としては、理科などコース別に講座を開設しながら、事業の特色を出して受講者の増加を図ってきた。

また図書館事業では、館内の展示方法や備品の整備などを進めながら、利用者の利便性の増大を図ってきた。

►成果と課題

- ・「親子文庫」は本に関心のある親子が多く参加していただき、盛会であった。また、無料配布は、好評であり、これからも継続したい。
- 図書館事業については、昨年度国の交付金により備品の整備や新刊図書を増やしながら、町民が本とふれあう機会の環境整備を整えてきた。今後も豊富な蔵書を通して心豊かな、生活が送れるような図書環境の整備進めていきたい。
- 公民館だよりでの新刊図書の紹介については、今後も充実・拡充していくといい。
- ・「子育て教育講演会」は、『親業』という親目線から子供の教育の在り方について講演をいただいた。大変参考・勉強になったという声をいただくとともに、親子・学校・地域がどのように関わり、連携をしていくか、大きな課題もある。
- ・出雲崎ッズは、参加者から概ね好評を頂いているが、全体的に人集めが大変である。今後の課題であるが、学校等と連携を取りながら児童・生徒に事業の内容について、興味・魅力度などをピアールし、早めに参加を募っていきたいと考えている。



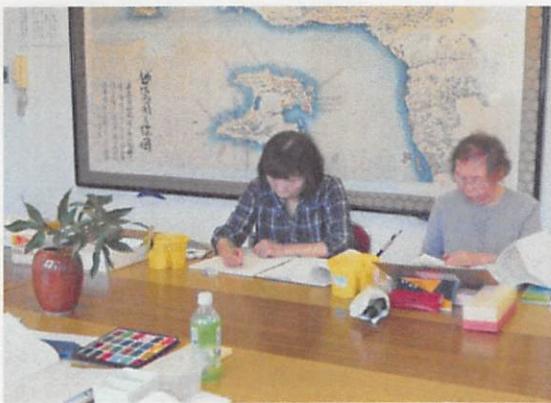
めばえ教室の一コマ



パソコン教室の一コマ



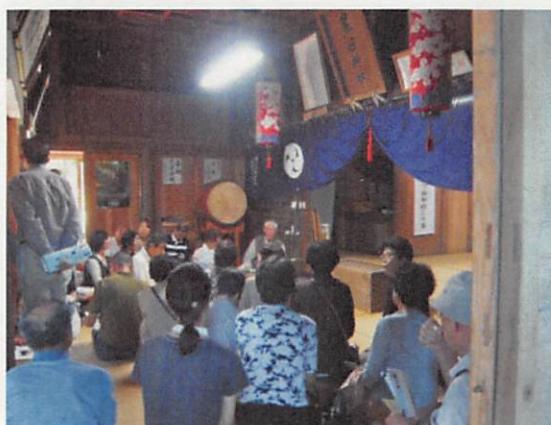
出雲崎ッズの一コマ



絵画教室



ガーデニング教室



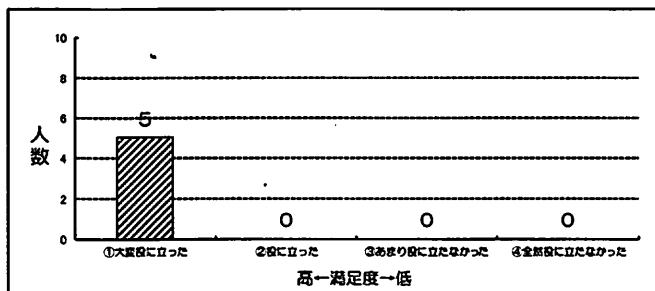
出雲崎総合大学事業の一コマ

平成24年度パソコン教室アンケート（年賀状コース）

平成24年11月8日実施
参加者5人中5人が解答

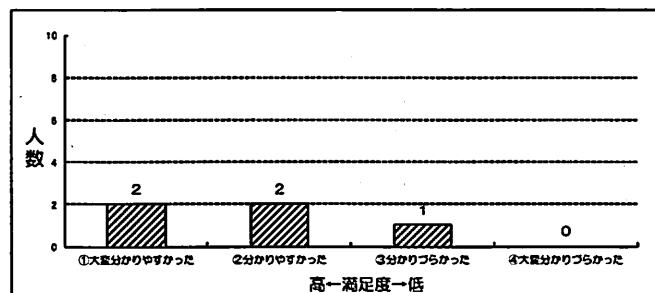
1. 講座の内容に関して

①大変役に立った	5
②役に立った	0
③あまり役に立たなかった	0
④全然役に立たなかった	0
有効回答数	5



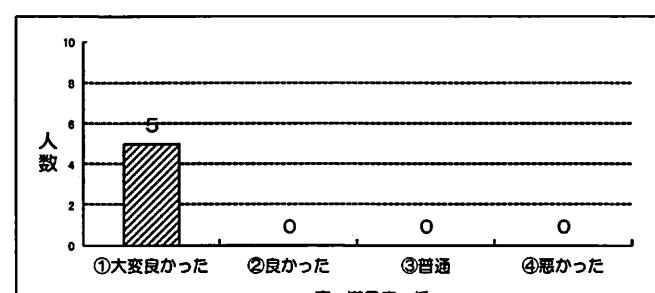
2. テキストに関して

①大変分かりやすかった	2
②分かりやすかった	2
③分かりづらかった	1
④大変分かりづらかった	0
有効回答数	5



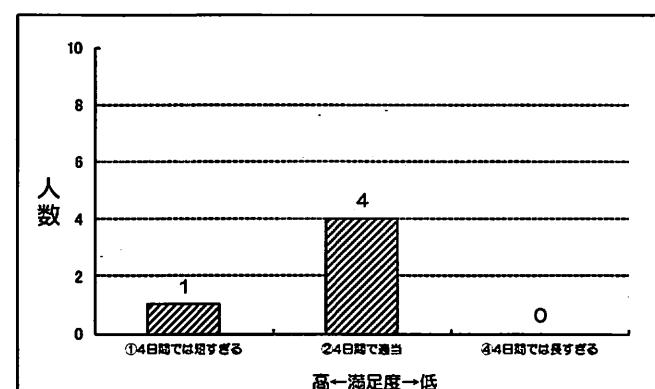
3. 講師の対応に関して

①大変良かった	5
②良かった	0
③普通	0
④悪かった	0
有効回答数	5



4. 講習時間に関して

①4日間では短すぎる	1
②4日間で適当	4
③4日間では長すぎる	0
有効回答数	5



5. 講習時期について

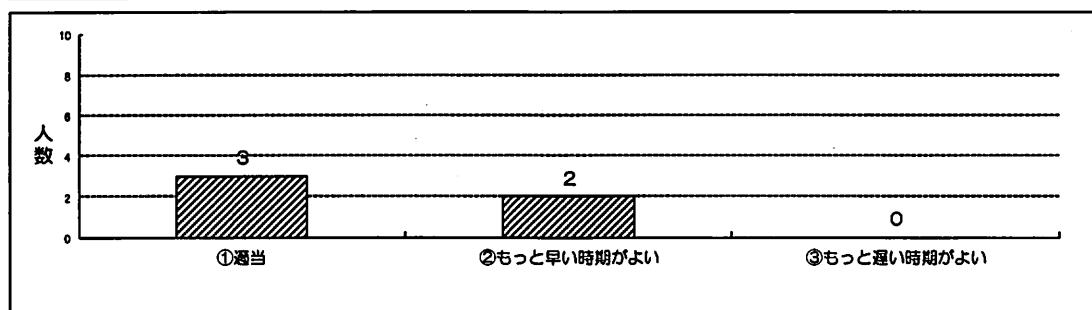
①適當	3
②もっと早い時期がよい	2
③もっと遅い時期がよい	0
有効回答数	5

(希望する時期について)

- ・「もっと早い時期がよい」と解答した方

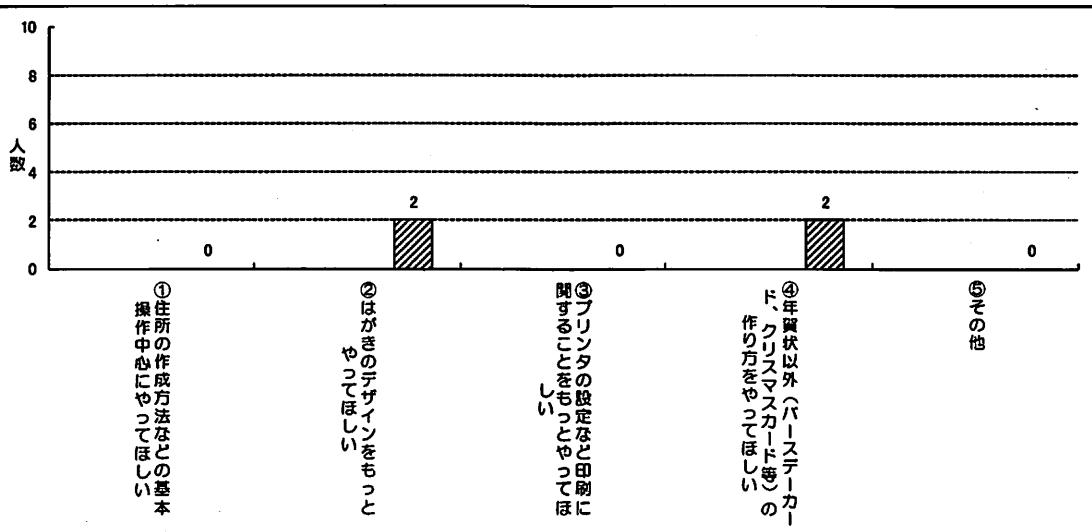
9月、または10月

- ・「もっと遅い時期がよい」と解答した方



6. 今後どんな年賀状コースを希望するか（複数回答）

①住所の作成方法などの基本操作を中心にやってほしい	0
②はがきのデザインをもっとやってほしい	2
③プリンタの設定など印刷に関する事をもっとやってほしい	0
④年賀状以外（バースデーカード、クリスマスカード等）の作り方をやってほしい	2
⑤その他	0



7. その他要望（自由解答）

- ・今年の年賀状は 筆王で作成したい。（4人） もっと練習しないと無理（1人）
- ・参加者が少なかったこともあり、細かくゆき届いたご指導ありがとうございました。

今年は早速挑戦します。

9 重点施策	社会教育「歴史・文化の振興について」
▶取組みの状況	<p>1 文化・芸術事業の推進について</p> <p>▶主な取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 文化財調査審議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・会議年2回、委員研修会年1回 ・先進地視察研修（7月2日～3日群馬県方面） ② 東京藝術大学生招致事業 <ul style="list-style-type: none"> ・7月25日/水から7月28日/土まで合宿し、日本画科4学年の10名が参加 ・小学生と中学1年生に写生教室として絵の指導を行った。 ③ 街並ギャラリー <ul style="list-style-type: none"> ・9月15日/土から17日/月祝まで出雲崎妻入りの町屋を会場に東京藝術大学生が描いた作品40点を展示、延べ250名が来場。 ④ 第8回良寛さんの心書道展 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生から中学生まで295点応募あり ・9月20日/木から9月30日/日まで講堂を会場に全作品を一堂に展示、延べ300名が来場。 ⑤ 文化・芸術体験事業（鼓童交流公演） <ul style="list-style-type: none"> ・6月14日/木、会場：町民体育館、一般町民など700名が来場 ⑥ 第3回生涯学習フェスティバル <ul style="list-style-type: none"> ・11月2日/金から3日/土祝まで町民体育館と講堂を会場に作品展示（個人名・団体組参加）、ステージ発表（個人・団体組参加）があり、一般町民など3,000名が来場。 ⑦ 二松学舎大学書道部合宿 <ul style="list-style-type: none"> ・8月8日/水から8月10日/金まで 教授・学生26名が来町 ・8月9日/木 源川 進 教授から「良寛と貞心尼の恋」と題し講演会を開催し、約60名が出席。

⑧ 良寛堂建立 90 周年記念事業

・良寛の生家・橘屋跡に良寛堂が建立されたのは、大正 11 年 9 月 16 日である、その建立には郷土史研究家佐藤耐雪 儂が中心となって多くの困難を乗り越え完成したものである。

その、苦労を偲び、遺徳を顕彰するため、10 年を節目とし記念式典を行っている、今年は丁度建立から 90 年ということで、耐雪儂のお孫さんである、反町タカ子さんの記念講演など記念式典の挙行とあわせ、良寛堂絵画・写真展及び東京学館新潟高等学校書道部による、書道パフォーマンスも併催し、県外・県内から約 300 人の良寛ファンが訪れ、90 年の節目を祝った。

⑨ 文化財保存団体の保護活動への補助

・小木ノ城城跡史跡保存会、滝谷薬師保存会、出雲崎代官所獄門跡保存会

2 歴史事業の推進について

►主な取組み

① 出雲崎宝もの新発見事業

・3 カ年の事業計画の 2 年目となる事業である。

本年度の目玉事業と位置付け、宝物の情報・収集を中心に行った。

・平成 24 年 1 月 11 日には、宝物事業の協力員の会議を開催し、現在の状況と今後の事業についての、協力お願いした。

事業の状況等について、P-35~37 ページに資料を添付した。

(集落等から 202 点届け出あり : H24. 12. 末日現在)

出雲崎宝もの新発見事業

町の宝もの
探そう！生かそう！伝えよう！

探そう！

平成 23 年度から町民の皆さんに地域に眠っている「宝もの」を探していただいて、保存・活用を行う事業を行っています。

町民の皆さんをはじめ各地区の協力員の方々から多くの届出をいただき、平成 24 年 12 月末現在、202 件です。



※参考届出数（分野ごと）

分野	届出数	分野	届出数		
仏像・彫刻	23	てぬぐい等	18	自然	5
遺物	2	うちわ	2	史跡	6
石碑・道標等	14	はがき	9	建造物	7
絵画等	8	写真	13	伝統芸能・祭等	4
工芸等	7	書籍	5	幟・獅子	4
民具等	15	古文書	8	歴史資料	40
陶器等	2	動植物	10	計	202

昭和初期の頃の地域の写真、戦前、戦後に使っていた民具、地域に伝わる昔話、明治以前の古い建造物、地域で守っている石碑・仏像など…皆さまの地域に「宝もの」が眠っていませんか。

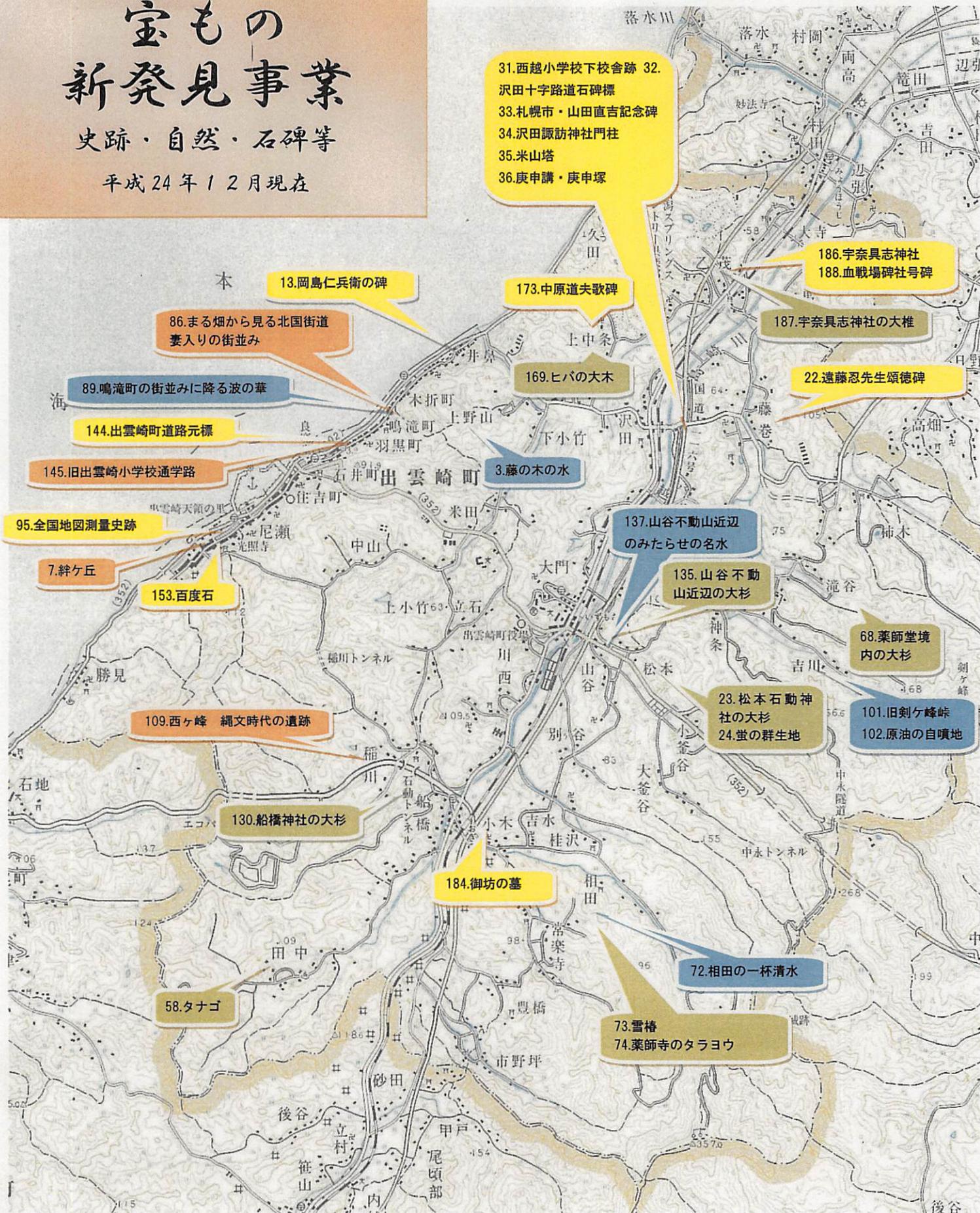
皆さまからの届出をお待ちしています。



宝もの 新発見事業

史跡・自然・石碑等

平成24年12月現在



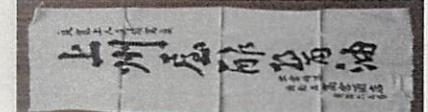
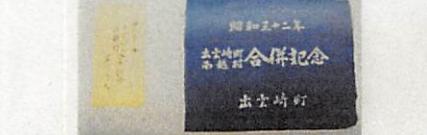
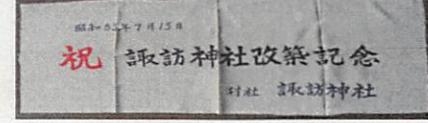
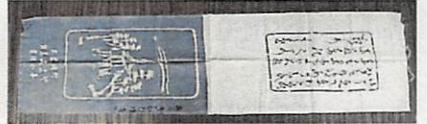
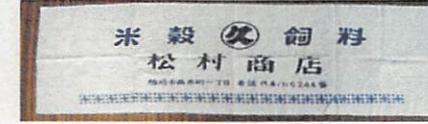
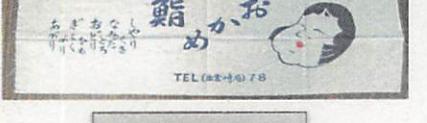
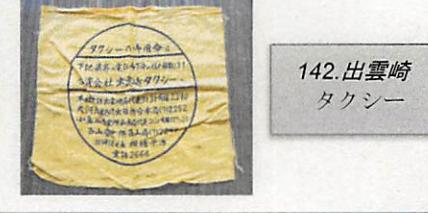
史跡

自然

動物・植物

石碑・道標

てぬぐい・ふきん等

 <p>40. 小木ノ城開設記念</p>	 <p>49. 久田疊店</p>	 <p>49. 津又商店</p>
 <p>49. 昭和42年県消防表彰記念</p>	 <p>55. 高宮酒店</p>	 <p>55. 松村石油店</p>
 <p>57. 昭和41年石油公園姉妹</p>	 <p>181. 田中ラジオ店</p>	 <p>57. 出雲崎小学校創立百周年</p>
 <p>57. 出雲崎町・西越村合併記念</p>	 <p>79. 平田疊店</p>	 <p>92. 多聞寺</p>
 <p>92. 魚竹鮮魚店</p>	 <p>93. 諏訪神社改築記念</p>	 <p>97. みよや 1</p>
 <p>108. みよや 2</p>	 <p>108. 松村商店</p>	 <p>114. 平田鮮魚店</p>
 <p>114. おかめ</p>	 <p>114. 村越呉服店</p>	 <p>114. 第四銀行</p>
 <p>120. 小林喜八商店</p>	 <p>142. 出雲崎タクシー</p>	 <p>142. 足立糀屋</p>

►概要

文化・芸術事業については、藝大生の街並スケッチ画招致事業をはじめ、鼓童交流公演事業、生涯学習フェスティバルなど、特色ある取組みがなされた。また、平成23年度から始めた出雲崎宝もの新発見事業については、2年目の取組み事業であり、町民の皆様に事業内容の周知に努めながら、地域の宝物の届け出の拡大を図ってきた。

►成果と課題

本町には、由緒ある歴史的、文化的な施設が数多くあり、町の特色を生かした事業を展開してきた。宝もの新発見事業については、2年目の取組み事業であるが、現在各分野合計して、202点の宝物の届出をいただいた。改めて出雲崎の地域が宝物の宝庫であることに驚きを感じるとともに、協力員の皆様に心から感謝しているところである。

今後の課題として、宝物を守る・守っていくという町民の意識をさらに高めていくためには、何をすべきかという大きな課題があるが、平成25年度には集約した宝物について、写真を貼付した『宝物台帳』を作成し、町民の方々に配布し、事業の成果をピアールしていくとともに、更なるご協力をお願いしたいと考えている。

大学の合宿関係では、「二松学舎大学の書道合宿」について今年が2年目となり、学生さんと児童・生徒・一般町民の方々との関わり・繋がりが定着してきた、今後も交流を深化させ、大切な町の事業に位置づけていきたい。

・「東京藝大生招致事業」については、招致形態が民間交流から町事業への位置づけの中で、町民の方はもちろん小学生・中学生との交流・学生による指導の場も設けられ、交流のすそ野が広がってきた。

昭和62年の夏から街並み保存活動の一環としての民間交流から始まり、まもなく27年目を迎える大変伝統のある事業である、今後も学生達から未来に残る出雲崎の街並みスケッチ画を数多く残してもらえるよう、街並みギャラリーの充実など作品展示の工夫も凝らしていきたい。

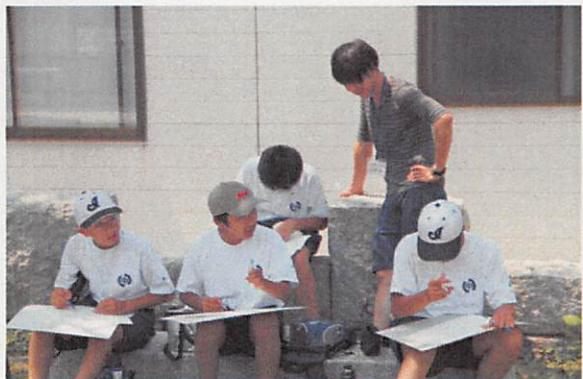
・「良寛さん的心書道展」は、来年は第9回目となり、出雲崎の児童・生徒の書道の向上・発展に大きく寄与している。

その作品の出来栄えには、驚くべきものがあり、審査会においては、甲乙つけがたいと、審査員からうれしい悲鳴もあがっている。

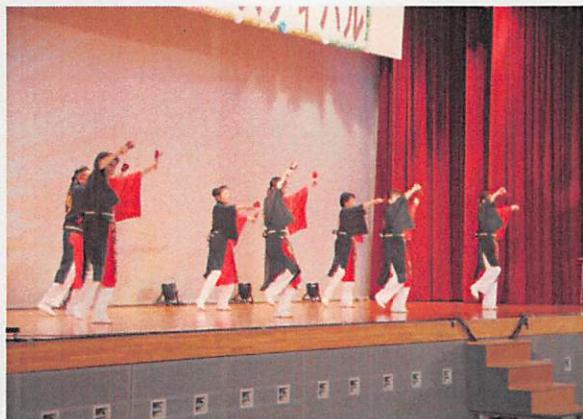
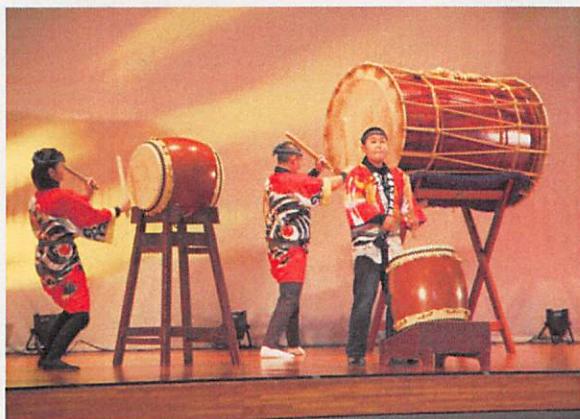
今後は、良寛記念館が町直営となることから、「良寛の人物像・良寛の書」への意識がより高まるよう各学校とも連携を深め、事業を実施していきたい。



二松学舎大学書道部の合宿風景



東京芸術大学生のスケッチ風景



生涯学習フェスティバルの一コマ

平成24年度生涯学習フェスティバルアンケート結果

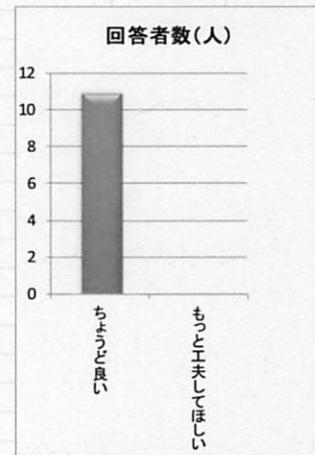
回答率60%(12人/20人)

1. 作品展について、配置、展示時間等についてご意見をお聞かせください。

回答	回答者数(人)
ちょうど良い	11
もっと工夫してほしい	

参考意見

- ・町民のフェスティバルのためにもっと体験できる場がたくさんあるともっと活気があると思う。

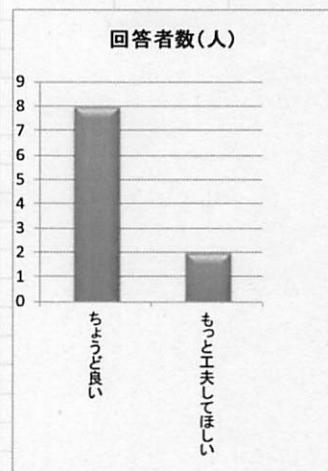


2. ステージ発表で、時間、進行、照明・音響等についてご意見をお聞かせください。

回答	回答者数(人)
ちょうど良い	8
もっと工夫してほしい	2

参考意見

- ・とっても良かったですね。
- ・音響はとても良かったです。照明は少し舞台が暗かったように思います。後ろの方の照明が強すぎた。
- ・音響大変良。司会も聞きやすく良かった。
- ・進行、ナレーション等がとても良かったです。
- ・2曲目がなかなか始まらなかった。合図の仕方、方法が徹底してなかつたようだ。
- ・前日のリハーサルもあり、照明・音響についても配慮していただき良好であった。
- ・支度が間に合わなくて何回も迎えに来ていただいて申し訳なかった。
- ・ほとんど時間通りに終了し、進行・照明・音響等良かったと思います。
- ・当会では十分満足であったが、他会の照明は多少不満を感じた。

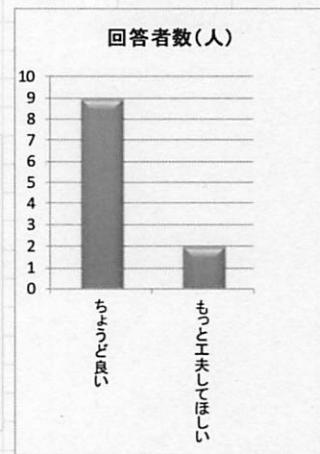


3. その他の催しについてバランス、内容等についてお聞かせください。

回答	回答者数(人)
ちょうど良い	9
もっと工夫してほしい	2

参考意見

- ・先生一人だけのステージがあったようだが、生涯学習で日頃学んでいるものを発表する場なのではないかと感じた。
- ・売店があっても良いのでは。
- ・婦人会の茶道について、午前中、児童のお点前・お運びを生き生きと喜んで活動している姿に、今後も継続していきたいと思った。
- ・お茶席もあり、良い経験をさせていただいたのでありがたかったです。



4. 参加して感じたこと、ご意見、ご要望など、どんなことでも結構ですのでお聞かせください。

- ・踊りのグループが何組かありますが、始めの方と最後は順番に、今年やつたら来年は別のグループにしてほしい。
- ・昨年を反省して時間短縮を考慮して、幕を下げなかったので効果があったのではないか。しかし、大分長い出演があった団体もあるようなのでそこを改善すれば終了時間がまだ短縮できると思われる。
- ・茶道については、幕、パネルの準備は婦人会員では難しいので今年も教育委員会からやってもらいありがとうございました。
- ・ステージ発表部門の閉会後に健康づくりフェスティバルの片付けを行った方が良い。同じフロアーの中で騒がしく落ち着かない雰囲気に思えたし、ステージ発表の方がかわいそうな気がした。
- ・会場がゆったりとれていて見やすかった。1日目に見にいったので駐車場も空いていて車椅子利用の方もゆっくり見せてもらって楽しんでこられました。来年もよろしくお願ひします。
- ・保育園児や小学生の発表が終了したら帰る人が多くあり、また、来館者も以前に比べ少なくなったように感じました。

9 重点施策	社会教育「体育・スポーツ活動の振興について」
►取組みの状況	<p>►主な取組み</p> <p>①町内大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第32回町民ソフトボール大会 7チーム 97名参加 ○第34回町民バレー大会 8チーム 77名参加 ○第31回町内ゲートボール大会 11チーム 78名参加 ○第6回町民ウォーキング 70名参加 ○第23回町民ソフトバレー大会 12チーム 70名参加 ○第26回屋内ゲートボール大会 10チーム 68名参加 ○第32回町民バトミントン大会 8チーム 80名参加 <p>②スポーツ大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○わんぱく水泳教室 延べ206名参加 ○柔道教室 繼続中 ○剣道教室 繼続中 ○柔剣道昇級審査会 15名参加 <町民バレー大会> ○さわやかスポーツ教室 繼続中 ○小学校スポーツチャレンジ教室 (サッカー延べ394名・バレー延べ86名・バスケ継続中) ○スキー＆スノーボード教室 40名参加 <p>③体力づくり事業 (会場:トレーニング室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講習会 年24回開催 ○トレーニング教室 繼続中 なお、施設開設以来、約17,000人が利用された。 <p>④スポーツ推進委員事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県スポーツフェスティバル中越地区大会 (ラージボール卓球大会 8チーム 47名参加) <p>⑤柳津町とのスポーツ交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月15日/日 野球交流試合開催 (会場:出雲崎町) ・12月15日/土 ゲートボール交流試合開催 (会場:柳津町) (なお卓球は日程上の都合により中止)

►概要

町民一人ひとりが、生涯健康でスポーツを気軽に楽しみ、充実した生活が送れるように、社会体育事業を実施してきた。特に、町民体育館のリニューアルしたトレーニング室を使っての健康教室などに重点をおいて、体を動かす楽しさを実感できる事業を展開してきた。

►成果と課題

各種の町内スポーツ大会は、毎年開催しているが、町民の趣味の多様化に伴い、参加者が減少傾向にある。個人的な筋力トレーニングのような事業は、要望もあり、これからも継続的に開催していかなければならないと思う。

最も重要な点は、団体スポーツ事業の活性化に向けた取組みであると考えており、底辺の拡大につながるよう、各年代層にあったスポーツの提供や、指導環境の整備を図っていきたい。

そのためには、町体育協会の体制充実と行政との連携の中で、スポーツが健康に与える有用性など、保健福祉分野と密接な連携をとりながら、スポーツ事業を盛り上げていく必要がある。

姉妹都市の福島県柳津町とのスポーツ交流については、両町とも大変友好的な中で、道筋もついてきた、関係者並びに関係団体の協力に感謝するとともに、今後の交流の活発化のために、小・中児童・生徒どうしの、交流も視野に入れていきたい。

今後スポーツ熱をさらに高めていくには全町民参加型イベントの実施。例えば「従前実施していた町民レクリエーション大会」などを、新しいスタイル・形態の中で実施する等の検討もしていく必要があるのではないかと考える。

関係者の意見など十分に吸い上げ、意見を集約しながら、今後の大きな課題としていきたい。



第32回町民ソフトボール大会



第31回町民ゲートボール大会



小学生スポーツチャレンジ教室「サッカー教室」



わんぱく水泳教室



トレーニング教室



中越地区スポーツフェスティバル
ラージボール卓球大会

各種スポーツ大会の一コマ

10 重点施策	学校・社会教育「施設の整備充実について」
►整備の状況	<p>1 学校教育施設の主な整備状況</p> <p>(1) 出雲崎小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教室出入口扉改修工事 ○校舎棟屋上防水改修工事 ○マイクロバス購入事業（入れ替え） ○通学バス運行事業 <p>(2) 出雲崎中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内放送設備改修工事 ○高圧気中開閉器改修工事 ○ワイヤレスチュナー購入（体育館放送設備） ○加湿器購入 ○草刈り機購入 <p>2 社会教育施設の主な整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワイヤレスマイク（中央公民館講堂放送設備） <p>3 社会体育施設の主な整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町民プールろ過機ヘーキャッチャー取替工事

►概要

学校教育施設や社会教育・社会体育施設等の整備を計画的に進めてきた。懸案であったそれぞれの施設の大規模改修工事や機器の購入などは、おおむねの整備が完了した。また、本年度緊急を要する改修工事などの整備もおこなった。

►成果と課題

学校施設では、出雲崎小学校の教室出入り口改修工事・校舎棟屋上防水改修工事が電源立地交付金を当てて平成24年度完了することができた。また、小学校のスクールバスについては、使用から12年を経過し、走行距離も多くなってきたことから、新しいマイクロバスに入れ替えを行った。

中学校については、校内放送設備の改修工事・高圧気中開閉器改修工事をおこなった。備品関係については、体育館ワイヤレスチュナーの購入・加湿器の購入・草刈り機の購入など備品類の整備をおこなった。

社会教育施設では、中央公民館講堂の放送設備として、ワイヤレスマイクを新しいマイクに更新した。

社会体育施設では、町民プール濾過機ヘーキャッチャーの取り替え工事をおこなった。

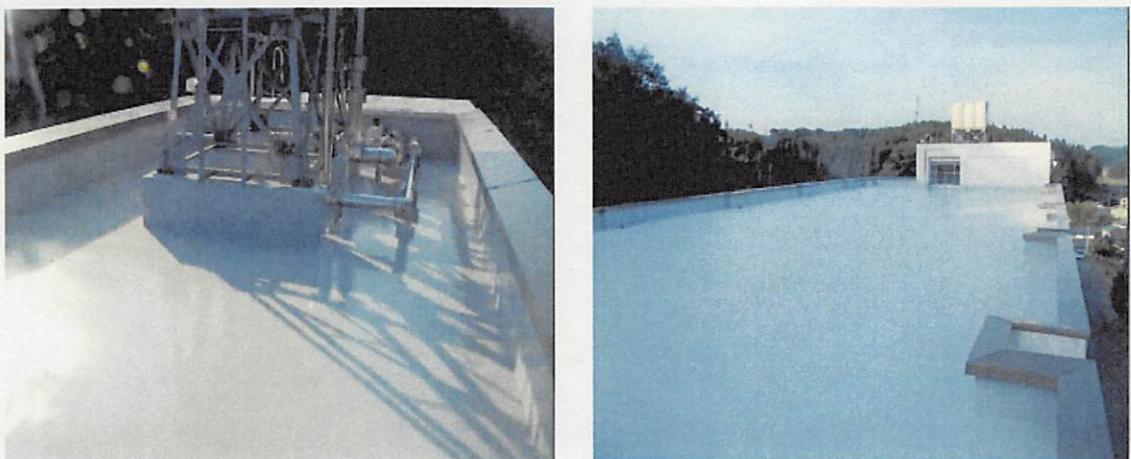
今後とも、財政面との調整の中で、今まで未整備の施設を年次計画の中で整備していくかなければならない。



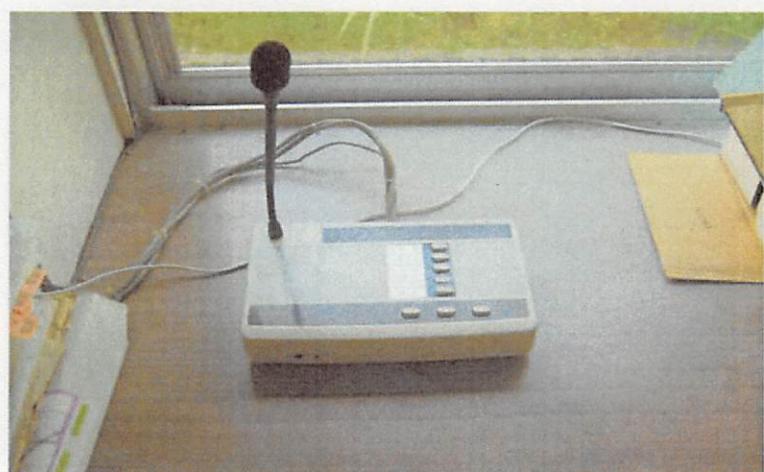
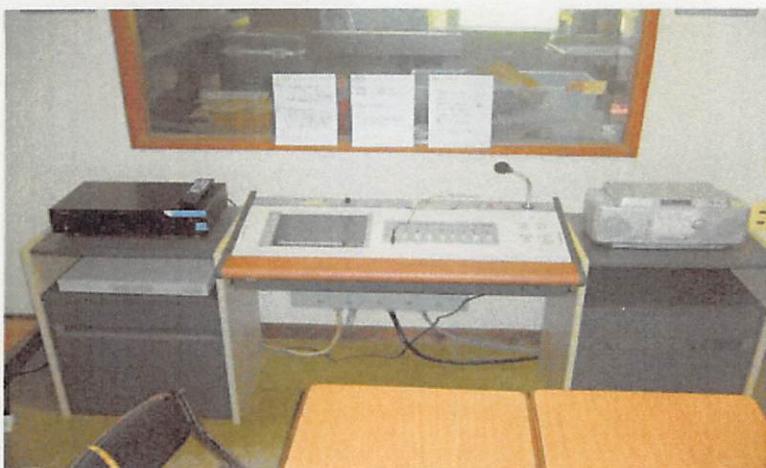
出雲崎小学校マイクロバス購入事業

教室出入口扉改修工事





校舎棟屋上防水改修工事



出雲崎中学校校内放送設備改修工事



備品の整備（加湿器・草刈り機）



社会体育施設の整備
「町民プール濾過機ヘアキャッチャー取替え工事」

III 学校支援地域本部コーディネーターの感想・評価

学校支援地域本部コーディネーター 磯部 友記雄

学校支援地域本部事業の地域コーディネーターとして5年間、出雲崎の小・中学校の総合学習のお手伝いを軽い気持ちで引受けました。

私は出雲崎町職員として定年退職まで42年、その中で32年間も社会教育に係わりました。その長い経験を地元の子ども達に生かせる事で、少しでも恩返しを出来たと思っています。

さて、実際に児童・生徒と接して、自分の子供の頃と現在の子供たちの考え方や行動が大きく変化していることを強く感じております。それは社会環境の急激な変化で仕方ないことと思っています。

さて、平成24年度の教育に関する事務の管理及び執行状況の「点検・評価報告書」を見て児童・生徒及び保護者、地域の人達との係わる社会教育事業においては、青少年教育事業の「幼児期」「少年期」の各期に適した事業が実施され、子を持つ親の交流へと繋がる内容であると思います。また、学校教育では各学年に応じた取組みの中に地域の高齢者との交流や、学校ボランティアに支えられての食物栽培である、田植えから稲刈り、さつまいも植え等の植え付けから収穫。また、それを利用した調理実習や販売等と食に対する学習が実施されて「食」について考える大変良い機会となっている。

地域文化の伝承者として伝えていかなければならない町や集落の行事に参加する事の大切さを教えていただきたい。

子供たちの将来を考える大切な時、出雲崎町を礎いてきた先人達の苦労を知り、その人達の考えに触れる事も大切であり、小学生から中学生へと進む過程の中で、そのような学習も取り入れられておる学習の機会がある事が重要である。

将来の自分を見つめる時、地元企業訪問と経営者の話を聞くことも大切であると考えます。

平成24年12月26日付の新潟日報に、学ぶ「面白さ」を伝えたいとの記事がありました。内容の一部で、学校では企業や地域など外部から人を招いて、仕事や暮らしに結びつく授業が模索されている。

行政も支援して、人材を生かしたり、伝えなければならないのは、勉強の「必要性」ばかりではなく「面白さ」だ。

児童・生徒に好奇心を育むために行政・学校・地域が手を携えて行く事が重要であり。今後の学社連携事業における、重要な課題でもあると考える。

IV 学識経験者からの総合評価

元長岡市立北中学校長 山崎十五郎

地方分権化の動きの中で、地方教育行政法が改正され、教育委員会自らが教育行政活動について点検・評価を行い報告書を作成することが義務づけられて5年目を迎える。その基本理念は、あくまでも地域の実情に応じた教育施策を実施するために、教育委員会の自主性・主体性を発揮することにある。貴教育委員会の取組を見ると、各教育分野において幅広い角度から実態を把握し、年を追って積極的に改善策が施されてきていることが窺える。

まずもって、今年度からスタッフに「管理指導主事」を配置したことは学校教育全般にわたり、大きな支援になると思われる。国の指針に沿う形で、「町の教育は町自らの力で」という姿勢の表れでもある。学校訪問や「町教委だより」の発行等を通して、学校と行政とが喫緊の課題や指導の改善について緊密な連携が取られている。

次に、1小・1中の地域性を生かして小中連携教育に力を注いでいることがあげられる。義務教育9年間を見通して、「いつ、誰が、どんな」指導を行うのかを明確にした教育活動の推進は出雲崎町の教育の根幹をなすものである。児童生徒のみならず、教職員間の交流が日常的に行われていることは極めて重要である。1例を挙げれば、全国学習状況調査のデータについても鋭い分析がなされ、それを両校および行政がしっかりと共有している。このような教育態勢が、児童生徒の学力向上につながり、また生徒指導面でもいまだに社会問題化している「いじめ」の防止につながっていると考える。

多様化の傾向は地域社会においても顕著になりつつあり、住民の多岐にわたるニーズに応えることは困難な課題となってきている。しかし、貴町にあっては、生涯学習・公民館活動そして歴史・文化の振興において、様々な事業が展開され、世代を超えた参加が見られることは高く評価される。特に、聖僧良寛にまつわる事業・取組においては今後とも大きな期待が寄せられる。将来、地域の人材となりうる児童生徒の心の成長に多大な影響を与えると思われるからである。

これからは、特色ある地域社会づくり、学校づくりを支援することが新たな教育委員会の役割と言われている。この報告書を一読して、成果のまとめ方、写真を取り入れた編集の工夫、次年度に向けた展望と迅速な予算措置、そして教育委員の皆さんとの研修の充実と出雲崎町教育委員会の熱意が伝わってくる思いがした。末尾ながらその御労苦に敬意を表するものである。

V その他

○指導いただいた学識経験者名

(敬称略)

職 名	氏 名	備 考
元長岡市立北中学校長	山崎 十五郎	柏崎市在住(旧西山町)

○町教育委員会関係者名簿

—教育委員—

(敬称略)

職 名	氏 名	備 考
委員長	木川 勇三	
委員(職務代理者)	村越 隆夫	
委員	内山 才子	
委員	棚橋 正吾	
教育長	佐藤 亨	

—職員名簿—

平成 25 年 3 月 31 日現在

職 名	氏 名	備 考
教育課長	佐藤 信男	
管理指導主事	相川 良和	
教育課参事	山田 栄	
教育課参事	辰口 芳子	
教育課主任	若山 和義	
教育課主任	五十嵐文明	
教育課主事	磯田 勇人	
事務職員	山後 美智子	
事務職員	小川 真紀子	
用務員	小林 秋子	
良寛記念館 館長	本間 黙	
同 館長代理	徳永 孝一	
同 学芸員	吉田 隆	
同 事務職員	小林 浩子	
同 事務職員	小黒 晴美	